

井上 浩 二議員



(一般質問)

- 1 インフルエンザ対策について
- 2 小松地区上水道事業の水源開発について

補助制度の導入を！

インフルエンザ予防接種

問

現在、本市においては、中学生まで子どもの医療費が無料になっているが、インフルエンザの予防接種は任意接種のため、個人負担となっている。

予防接種の費用については、被用者保険に加入している世帯では補助制度があるところが多いが、国民健康保険の世帯には補助制度がない。国民健康保険の世帯で、子どもが2人で夫婦合わせて4人の家庭の場合、接種費用は安くても1万4千円程度かかる。高い

と2万8千円程度かかるところもあるため、予防接種を受けることができない家庭もある。

また、予防接種代金がかさむため、ちゅうちょしている間にインフルエンザに罹患してしまう人もいるようである。

本市は、株式会社宝島社が発行する「田舎暮らしの本」で発表された「2020年版住みたい田舎ベストランキング」において、若者世代が住みたい

田舎部門で全国第1位、子育て世代が住みたい田舎・シニア世代が住みたい田舎部門では全国第4位を獲得している。

この際、若者世代や子育て世代に魅力ある田舎づくりをより進めるために、インフルエンザ予防接種の補助制度を導入し、子育て環境を更に充実させてはどうか。

答

予防接種は、人々を感染症から守る予防法のひとつであり、発症しても重症化を防ぎ、軽い症状でとどめるなどの役割がある。

インフルエンザ予防接種の児童・生徒への助成については、県内11市では、新居浜市が中学3年生、高校3年生の受験生を対象に令和元年度より助成を行っており、その他には内子町・伊方町・愛南町の3町がそれぞれ助成を行っている状況である。

本市においては、妊娠から子育て期まで手厚い支援を行っている

るところであり、子育て世代への支援の重要性はじゅうぶんに認識しているが、厳しい財政状況が続いている中、現状では、新たな助成制度の創設については考えていない。

今後とも、学校での予防対策などを含め、さまざまな観点から総合的に感染予防に取り組んでいきたい。

三好 和彦 議員



(議案質疑)

- 1 「笑い」で健康づくり推進事業について
 - 2 保健体育一般管理費について
- (一般質問)
- 1 化学物質過敏症について

化学物質過敏症

正しい理解と対応を！

化学物質過敏症とは、建材や内装などから放

出されたり、香水、柔軟剤、整髪料などの日用品に含まれる多種多様な化学物質に敏感に反応して、せきやくしゃみ、吐き気、めまいなどの症状が現れるものであり、ひどい場合、外出できなくなることもある。

全国的にも診断できる医師が限られており、周囲の理解も得られにくく、潜在患者が市内にも多数いるものと見られる。このような中、本市は、化学物質過敏症をどのように認識し、現状把握しているのか。

また、小・中学校においては、周囲の理解不足を背景としたいじめなどの発生が懸念されるが、発症した児童・生徒への配慮について、どのように考えているのか。

更に、先進自治体においては、化学物質過敏症に対する市民の理解を進めるために、周知・啓発活動を行ったり、発症者への支援のために行政と民間団体との間で、相談・連絡体制を設けているところもあるが、こうした周知・啓発に向けた取組について、どのように考えているのか。